



Bーぐる沿線協議会ニュース

第30号

令和6年3月発行 Bーぐる沿線協議会事務局 区民課庶務係コミュニティバス担当 03-5803-1387

令和6年3月14日に沿線協議会が開催され、令和5年12月までのBーぐるの利用状況と令和4年度利用実態調査を分析した報告があり、活発な意見交換が行われました。

コロナ禍から復調の兆しも、2024年問題等の新たな課題が浮上

はじめに事務局から、令和5年4月から12月までのコミュニティバスの乗車人数の報告がありました。これによると、3ルートともコロナ禍から回復途上にあった前年同月を上回る水準で推移してきましたが、コロナ前の9割程度の水準でまだ完全に戻っていません。こうした状況は文京区に限らず、全国的にみられる傾向とのことです。

一方で、本郷・湯島ルートは10月から30分間隔の減便運行となった影響もあり、乗車人数が減少に転じています。背景には、慢性的な運転士不足により運行に必要な乗務員数の確保が困難になったことがあります。

日立自動車交通の關田委員の説明では、近隣区のコミュニティバスでも葛飾区が2路線とも休止、足立区が1路線の廃止、台東区が減便運行を余儀なくされている状況で、4月1日から運転士の総労働時間を規制するいわゆる2024年問題をクリアし現在の

運行ダイヤを維持するためには、運転士を補充する等の対応が急がれます。バス各社で募集競争が激化する中、Bーぐるの運行を維持するために努力しているところです。

幸いにして、今回の措置は令和6年3月31日で解除できることになりましたが、文京区では、公式ホームページや区設掲示板における運転士募集記事の掲載等の協力を通じ、運行事業者と共に安定したコミュニティバスの運行に向けた努力を継続していくと報告されました。



利用実態調査を掘り下げて集計分析

前回の沿線協議会では、昨年度実施した利用実態調査をもう少し活用できないか、年代による各運行サービスに対する満足度の違いや10年前の調査結果との比較をすることで、本郷・湯島ルートの利用が伸びない理由がわかるのではないかという意見が出されました。

これを受け、事務局からアンケート結果に関する報告がありました。運行に関する各サービスを5点満点（満足5点～普通3点～不満1点）で集計した結果、3.3～4.6点の間に収まっており、すべての運行サービスが普通以上の評価でした。（裏面表参照）

満足度上位3つは「料金（4.5）」「運転手の接客・

運転マナー（4.1）」「全体的な評価（4.0）」、反対に満足度下位3つは「運行間隔（3.5）」「ルート・経由地（3.6）」「バス停のわかりやすさ・快適性（3.7）」「車両の大きさ・座席数・乗り降りのしやすさ（3.7）」であり、世代を問わず共通した傾向がみられます。但し、「バス停のわかりやすさ・快適性」は、70歳以上や50代・60代で満足度が低いという結果になりました。

このほかに、主な乗車目的は各ルートで異なる、本郷・湯島ルートで平日朝の通勤通学時間帯の利用が少ないといったルート別の特徴も今回明らかになりました。

各運行サービスの満足度(世代別、5 点満点)

	全年代	10 代・20 代	30 代・40 代	50 代・60 代	70 歳以上
全体的な評価	4.0	4.0	4.0	4.0	4.1
ルート・経由地	3.6	3.5	3.6	3.6	3.8
運行間隔	3.5	3.5	3.5	3.3	3.6
始発・最終の時刻	3.9	4.1	3.8	3.8	3.9
鉄道接続のしやすさ	3.9	4.1	3.9	3.9	3.7
バス停のわかりやすさ・快適性	3.7	3.9	3.9	3.6	3.5
定時性	3.9	3.9	4.0	3.9	4.0
料 金	4.5	4.5	4.6	4.5	4.4
車両の大きさ・座席数・乗り降りのしやすさ	3.7	3.8	3.7	3.6	3.7
運転手の接客・運転マナー	4.1	4.2	4.0	4.1	4.1

満足(5 点)、まあ満足(4 点)、普通(3 点)、やや不満(2 点)、不満(1 点)とした平均点。

各年代の は上位 3 位。 は下位 3 位

令和 6 年度に公共交通システムの導入可能性調査を実施

文京区内に残る公共交通不便地域、白山、千石、大塚の一部地区における移動ニーズを把握し、対象地区への公共交通システム導入について具体的な検討を行うものです。

Bーぐる(日野ポンチョ)にとどまらず、小型ワンボックスカーやグリーン・スロー・モビリティといっ

た車両の検討の外、AI を活用したオンデマンド方式等、運行方式の検討を含めた幅広い検討になるとしています。

参加委員からも、葛飾区や三鷹市で実施中の社会実験に関する発言もあり、新たな交通手段に対する関心の高さがうかがえました。

多方面からの取組でBーぐるの利用促進を

寺澤副会長から、BーぐるのPR 活動について報告がありました。

区内の祭りにBーぐるを利用してもらう取組として、Bーぐるのルートと区内の祭りを掲載したチラシを作成し、昨年のあじさ



寺澤副会長

いまつりから配布している。実際、区外からの観光客も多く、白山神社のあじさいまつりの後に小石川植物園に向かう流れもある。そうした人に、「お帰りは千川通りの共同印刷のバス停からBーぐるが便利ですよ」と案内しているそうです。

Bーぐるのイメージキャラクターの立て看板があれば目立ってアピールできるし、Bーぐる友の会とも連携しながら盛り上げていければと意気込みを語りました。

飯森委員からは、東京メトロ千代田線千駄木駅構内にあるめぐりんの乗換案内を例にあげ、Bーぐるでも同様の取組ができるのではないかという意見があり、事務局は「以前断られたと認識している。実現に向け、設置の経緯等を情報収集していきたい」と回答しました。



千代田線千駄木駅(改札内にも同様の掲示がある)

編集後記

近隣区のコミュニティバスが廃止や減便に追い込まれる状況下で、Bーぐるもいよいよかという状況に、改めて他人事ではいられない深刻さを痛感しました。沿線協議会の中で生まれた文京区商店街連合会とBーぐる友の会の連携等、多方面からBーぐるを盛り上げていきたいものです。(N)